

令和6年度第1回石狩市総合戦略推進懇話会 議事録

【日 時】 令和6年7月3日（水）13：30 ～ 15：10

【場 所】 石狩市庁議室

【出席者】 14名（17名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	神林 周二	×	委員	釣本 峰雄	○
副会長	住吉 赴夫	○	委員	河野 明美	○	委員	中野 勝也	○
委員	秋田谷 順子	○	委員	小山 玲子	○	委員	野村 彩夏	×
委員	石上 千里	○	委員	佐々 茉奈美	○	委員	林 敏樹	○
委員	伊藤 朱美	×	委員	白井 かの子	○	委員	船木 幸弘	○
委員	尾方 哲	○	委員	高宮 則夫	○			

※正副会長を除き、あいうえお順

【オガバー】北海道石狩振興局地域政策課長 杉村 勝彦、地域政策係 葛西 瑠香

【事務局】企画政策部長 小島 郁也、企画課長 宇野 博徳

企画課主査 吉田 有絵、企画課主任 山崎 将平

【傍聴者】 0名

【事務局（宇野課長）】

みなさま大変お疲れ様でございます。今日ご参加予定のみなさまが揃いましたので、会議を始めさせて頂きたいと思ひます。会議を始める前に何点か連絡事項がございますので、事務局からお話申し上げます。よろしくお願いいたします。

【事務局（山崎主任）】

開催前のお時間を頂戴いたしまして、ご連絡とお願い事項でございます。

議事録作成に関しまして、基本的に発言の際は、マイクを通してお話しいただければと思っております。

もう一つですが、みなさまのお手元にお配りしております資料ですが、事前に送付しておりました資料に訂正がございましたので、お手元の資料を活用していただければと思ひますのでよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

それではご協力の程よろしくお願いいたします。

本日は、時節柄お忙しいところご出席をいただき、誠にありがとうございます。

お時間となりましたので、ただいまから「令和6年度第1回石狩市総合戦略推進懇話会」を開催いたします。

私は、事務局、企画課長をしております、宇野と申します。

会長・副会長が決まるまでの間、私の方で進行をさせていただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

本会議につきましては傍聴可能な公開の会議となっております。また、本日の会議につきましては、お手元にお配りを申し上げました「次第」に沿って進めさせていただきまして、概ね15時頃に終了した

いと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

また、委嘱状の交付につきましては、お時間の関係もございまして、大変失礼ではございますけども、予めみなさまのお座席に配布をさせていただき、これを持ちまして交付とさせていただきます。なお委嘱期間につきましては、令和8年3月31日までとなっておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、議事に入る前に石狩市企画政策部長であり、事務局長であります小島から一言ご挨拶申し上げます。

【事務局（小島部長）】

みなさまこんにちは。石狩市企画政策部長の小島と申します。これから2年間よろしくお願いいたします。

日頃より、みなさまにおかれましては本市のまちづくり行政全般にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

本日は第1回総合戦略推進懇話会という形になりますが、ご多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。後ほど事務局よりご紹介させていただきますが、今年度に関しましては、今期から委員のみなさまの人数が16名から17名になりまして、そのうち11名の方が継続していただいております、6名の方につきましては新規にてご参加いただけるという事になりました。誠にありがとうございます。

さて、令和元年度に策定いたしました第2期石狩市まち・ひと・しごと創成総合戦略につきましては、令和2年度から令和6年度、今年度までの計画となっております。今年度につきましては、これまでの取組の成果や課題を踏まえまして、この第2期戦略の総仕上げを行うとともに、次期戦略の策定を行うという重要な年になってございます。

国におきましては、令和4年12月に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が「デジタル田園都市国家構想総合戦略」という形で改定されておりまして、これまでの魅力ある地域づくりの取り組みに加えまして、近年、みなさまの生活や経済活動への活用が進むデジタルにつきましても、地域活性化において大変効果的であるということで、新たな視点として加わっているところでございます。

本市におきましても、国の基本方針を踏まえた上で次期総合戦略の策定を進めてまいりたいと考えておりますので、懇話会委員のみなさまにおかれましてはご意見、活発なご議論をお願いできれば幸いと存じます。結びとなりますが、大変暑い日が続いております。また、冒頭でも申し上げたとおり、ご多用の中ご参加いただいておりますみなさまのご健勝とご活躍をご祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、委員の皆様をご紹介させていただきます。

石狩市総合戦略推進懇話会設置要綱 第3条の委員区分毎にこちらの方でお名前をご紹介させていただきたいと存じますので、お名前を呼ばれましたらその場で一言ご挨拶をお願いします。

それでは初めに、学識経験者といたしまして北海学園大学工学部非常勤講師であられます、高宮則夫様です。

【高宮委員】

みなさまこんにちは。高宮です。引き続きまして委員になることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、藤女子大学人間生活学部人間生活学科教授、船木幸弘様でございます。

【船木委員】

みなさまこんにちは。今回からご一緒させていただくことになりました、船木と申します。今日、二時半ごろ途中退席させていただきますが、みなさんと慎重な議論をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

それでは続きまして、産業界、金融機関、労働団体及びメディアの関係者といたしまして、初めに石狩商工会議所常議員、角川幸治様です。

【角川委員】

はい、こんにちは。角川でございます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、札幌市農業協同組合組合員、佐々菜奈美様です。

【佐々委員】

新しくご一緒させていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、税理士法人すみよし会計総合事務所、住吉赴夫様です。

【住吉委員】

札幌市内ではなく、石狩市内に事業所があります。住吉と言います。引き続きこの委員をやらせていただいております。よろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、北海道信用金庫石狩支店支店長、林敏樹様です。

【林委員】

みなさんこんにちは。北海道信用金庫の林でございます。昨年に引き続きまして委員をやらせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、北洋銀行花川北支店支店長、中野勝也様です。

【中野委員】

中野でございます。昨年に引き続き、みなさまと一緒に石狩市のためにご尽力できればと思っております。いろいろ頑張りたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、連合北海道石狩地区連合副事務局長、石上千里様です。

【石上委員】

みなさまお疲れ様です。石上と申します。今回から参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、株式会社キューブコーポレーション代表取締役、河野明美様です。

【河野委員】

河野でございます。広報誌などを担当させていただいております。引き続き今年もよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、京セラコミュニケーションシステム株式会社デジタルソリューション事業部デジタルインフラ部長、尾方哲様です。

【尾方委員】

こんにちは。今回から参加させていただくことになりました。尾方と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

それでは、住民組織の関係者といたしまして、NPO法人シャローム代表、釣本峰雄様です。

【釣本委員】

こんにちは。NPOシャロームでおしゃひろという情報誌を発行しております。初めてですが、よろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、厚田区地域協議会委員、小山玲子様です。

【小山委員】

小山玲子と申します。引き続き参加させていただきます。一応協議会では一番の女子頭ということで代表になっております。よろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、浜益自治婦人会連絡協議会監査、白井かの子様です。

【白井委員】

白井かの子と申します。よろしくお願いいたします。浜益の魅力を少しでもみなさまにお伝えしたいなと思って参加しております。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、公募委員として、秋田谷順子様です。

【秋田谷委員】

秋田谷順子と申します。昨年に引き続き今年もよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

なお、このほか本日ご欠席ではございますが、石狩商工会議所女性会副会長 伊藤朱美様、一般社団法人石狩観光協会主任 野村彩夏様、北海道銀行第9 法人営業部営業部長 神林周二様にも委員になってもらっておりますので報告を申し上げます。

続きまして、本日、オブザーバーとしてご出席をいただいております、北海道石狩振興局地域政策課長の杉村勝彦様です。

【オブザーバー（北海道石狩振興局地域政策課長 杉村氏）】

石狩振興局地域政策課長の杉村と言います。振興局として石狩市のみなさまのご意見をしっかりと受け止めながら、一緒に歩んでいきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

同じく、石狩振興局地域創生部地域政策課地域政策係の葛西瑠香様です。

【オブザーバー（北海道石狩振興局地域政策課地域政策係 葛西氏）】

石狩振興局地域政策課の葛西と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

それでは最後に事務局のメンバーをご紹介します。まず、企画課主査の吉田です。

【事務局（吉田主査）】

企画課主査の吉田と申します。本日はよろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

同じく企画担当の主任であります山崎です。

【事務局（山崎主任）】

山崎と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

それでは次に、会長・副会長を選出したいと存じます。石狩市総合戦略推進懇話会設置要綱の第4条において、「懇話会に会長及び副会長を各1人置き、委員の互選により定める。」となっておりますが、こういった形で選出すればよいかご意見いただければと存じますので、よろしくお願いいたします。石上委員、よろしくお願いいたします。

【石上委員】

もし事務局の方で何か案があるのであれば、お示しいただけたらいいのかなと思ったのですがいかがでしょうか。

【事務局（宇野課長）】

石上委員ありがとうございます。ただいま、事務局提案との意見がございましたけども、その他にご意見がなければ事務局からご提案させていただきたいと存じますが、いかがでございましょうか。

<意見無し>

【事務局（宇野課長）】

それでは、事務局案としましては、前期の懇話会もお引き受けいただいておりますお二人、会長には産業界からご参加いただいております石狩商工会議所の角川委員、副会長には同じく産業界からご参加いただいております税理士法人すみよし会計総合事務所の住吉委員にお願いしたいと存じますが、いかがでございましょうか。

<異議無し>

【事務局（宇野課長）】

ありがとうございます。

それでは、会長には「角川委員」を、副会長には「住吉委員」にお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これ以降の進行につきましては角川会長にお任せいたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【角川会長】

みなさま改めましてこんにちは。只今会長にご指名いただきました角川でございます。今期も引き続きよろしくお願いいたします。

私ですが、石狩市総合戦略推進懇話会を、いつからやっているか調べたのですが、たぶん10年か9年ぐらいで、その時から一緒にやらせていただいているのが河野さんと白井さんですよね。もう、10年一昔なんて言いますが、そんなに経ってしまったのかなというところです。でもこの10年間で、本当に石狩市を含む周辺環境、国も含めて、非常に大きな変化を遂げています。10年一昔ではなく、10年は二昔三昔ぐらいな感覚ですよね。2年3年で大きく世の中は変わり、石狩市長も田岡さんから加藤市長に代わり、大きく状況も変わってきていますが、本市を取り巻く環境も特に良い方向に変わりつつあるのではないかなと思っております。新港地域を中心に非常に今工業関係が盛り上がり、そしてITがどんどん全国的にも注目を浴びていますし、洋上風力等もありますので、石狩市は非常に注目を浴びている都市だというふうに、みなさんご存知のとおりですが、これをますます加速させていくのがわれわれ懇話会だなというふうにずっとやらせていただいております。それで、会議を運営するに関しても特に気を付けているのは、少しでもリラックスした環境を作りたいなと、みなさんの意見を引き出しやすい環境を作りたいなというのを心がけておりまして、あまり硬くならないようにしているつもりでもあります。ちょっと昔話になりますが、最初の頃ってもうちょっと人数が多かったような気がするのですが、なんとなく雑談で始まってしまい、みんな話が盛り上がってしまう。テーマがずっとずれてい

ったりするのでそれは避けたいと、ずれたら戻すみたいなのが私の役割です。そして、できればとか間違いなく一人一言ずつは必ずご発言いただきたい。特定の人に偏らないように気を付けてやってきたつもりであります。この2年間の任期ですけれども、こちらでも引き続き、私の役割はとにかく難しい事とかは喋れないし喋らない。で、皆さんの意見をとにかく引き出しやすい環境をつくる。一人でも多くの方に自分の日頃思っている事や、市に対すること、やりたいことでも何でも良いです、今取り組んでいる事でもいいし、これから行政の方々の協力を得ながらやってみたいことなんでも良いです。あと、いろんな自分自身の、データや知見、経験をお話しいただく、こういう事でかまわないので限られた時間の中で、一人でも多くの方の意見を吸い上げたい、引きだしたいと思って引き続きやらせていただきますので、どうぞご理解とご協力の程よろしくをお願いします。

それでは早速、次第に沿って進めてまいります。「次第2 総合戦略推進懇話会について」事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局（吉田主査）】

それでは私の方から説明させていただきます。まず始めに、お手元の資料をご確認願います。本日懇話会の「次第」と「資料1石狩市総合戦略推進懇話会の概要」、「資料2 総合戦略推進懇話会委員名簿」、「資料3 第2期総合戦略 令和5年度 実績概要」、「資料4 第2期総合戦略 令和5年度 実施事業一覧」A3サイズのものであります。最後に国のデジタル田園都市国家創生総合戦略の概要版につきましても入っていると思いますので確認をお願いいたします。また、冊子の「第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を持っていない方いらっしゃいましたらお渡しいたしますので、事務局まで声をかけていただければと思います。

＜資料ない方へ配布＞

【事務局（吉田主査）】

それでは、資料にそってご説明させていただきます。まず、資料1をご覧ください。本懇話会は、広く、関係者の意見を反映し、総合戦略の効率的・効果的な推進を図ることを目的とし、市の設置する『総合戦略推進本部会議』から、総合戦略の進行状況等の報告を受け、必要な助言や提案を行うこと等が懇話会の役割となっております。

懇話会委員の任期は2年間となっており、皆様には、令和6年度、令和7年度の委員としてご就任いただいております。

現行の、第2期総合戦略の計画期間は令和2年度から令和6年度までの5年間となっており、今年度が最終年度となっております。そのため、今年度は、昨年度に引き続き、令和5年度実施した事業の効果検証や意見交換を行い、計画の最終年度である今年度実施の施策や事業のブラッシュアップを図りたいと考えております。今年度の懇話会では、次期総合戦略策定についても意見交換させていただきたいと考えております。

次に、スケジュールですが、昨年度ご提示した案から変更し、資料1の下段「PDCAサイクル」の推進懇話会の欄のとおり、本年度は3回の懇話会を予定しております。1回目は本日7月3日、2回目は9月～10月頃、3回目は12～2月頃を予定しております。2回目、3回目の主な内容は次期総合戦略の策定が中心となる予定です。懇話会と連動し、以下、「総合戦略推進本部会議」、「市の各所管」については、懇話会からの意見を踏まえ、事業の評価、必要な見直しを行い、次の事業計画、実施へ繋げて参ります。

資料2は今期の懇話会の名簿となっております。

次第2にあります、石狩市総合戦略推進懇話会についての説明は以上となります。

【角川会長】

ただいま、事務局から説明がありました内容について、何かご質問等がございますか。

それでは続きまして、次第の3番ということで、「令和5年度実施事業の点検・評価について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（吉田主査）】

それでは、令和5年度実施事業についてご説明いたします。資料3をご覧ください。

第2期総合戦略では、第2期総合戦略の最終年度である、令和6年度の「数値目標」として、6つの戦略目標ごとに、2つの指標を設定しております。そして、この指標を達成するための、具体的な「65」の施策と「重要業績評価指標（KPI）」を設定しております。本日の懇話会では、具体的な65施策の取組状況について評価をしていただきますが、はじめに、12の数値目標の現状と、KPIについて、概要をご説明いたします。

「1. 戦略目標別数値目標の進捗状況について」をご覧ください。こちらの資料は、6つの戦略目標ごとに、計12の数値目標につきまして、令和5年度末までの状況をまとめたものになります。12ある指標のうち、令和5年度時点では、①の「地域活動に関わりをもつ新現役世代の人数」、③の「年少人口」、⑤の「市内産業売上高」、⑨の「転入・転出者の均衡」、⑪の「年度末の人口」の5指標（約4割）が達成の状況になっておりまして、それ以外の7指標（約6割）が、まだ、未達成の状況となっております。

次に、裏面の「2. 施策別重要業績評価指標（KPI）の実績について」をご覧ください。具体的な取り組み、全65項目のうち、「KPIをすでに達成している」S評価は18項目、「KPIの達成に向け、着実に取り組まれている」A評価のものは29項目、「KPIの達成に向け、事業の改善や見直し等が必要である」B評価のものは17項目となっております。

S又はA評価は、全65項目中、47項目で、全体の約7割となっており、概ね良好な進捗状況と言えるのではないかと考えております。

実績概要についての説明は以上になります。

【角川会長】

実績の概要という事ですけど、この後に細かい部分が出てくるのですが、概要部分でご質問等はございますか。よければ、ここから本日の議事になる重要業績評価指標KPIが65項目あるんですけど、こちらの懇話会としての評価をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

評価の仕方についてですが、市役所担当課の評価に対して、意見のあった項目につきましては、その都度、懇話会としての評価を決定していくというやり方です。

また、特にご意見等がなかった項目につきましては、担当課の評価どおりと決定していきたいと思っておりますので、初めての方もいらっしゃると思いますが、このとおり進めるというわけではないので、必ず疑問や聞きたいこと、こうしたほうが良いなどは言っていただいた方がよいので、よろしくお願いいたします。それでは、引き続き、事務局から説明願います。

【事務局（山崎主任）】

ここからは私の方から説明させていただきます。

では、資料4「第2期総合戦略 令和5年度実施事業一覧」についてご覧ください。主な取り組みや、評価の概要をご説明させていただきます。

こちらの資料でございますが、6つの戦略目標ごとの具体的な施策について設定した、重要業績評価

指標（K P I）につきまして、令和５年度の“実績値”及び“実績内容”、“令和６年度の予定”、“担当課の評価”を記載したものにになります。数値のところがあると思うのですがその横、文書が書いてあるところですね、その内容等になります。懇話会委員のみなさまには、懇話会としての評価が「担当課の評価どおり」でよろしければ“A”を、「見直しが必要」であれば“B”、というようにご評価いただきたいと思います。説明の際は、戦略目標の１と２、３と４、５と６、のように２つずつ区切って、説明して参りますのでよろしくお願いいたします。

それでは、「戦略目標１『新現役世代が活躍する』について」、ご説明いたします。資料は１～２ページ、番号は１～１０の１０項目となります。戦略目標１全体をとおして、担当課評価はＡが４項目、Ｂが４項目となりました。Ｓ評価は目標を既に達成したもので、Ａ評価はＫＰＩの達成に向け、事業が着実に取り組まれているもの、Ｂ評価はＫＰＩの達成に向け、事業の改善や見直しが必要であるものといった評価です。全体としては新型コロナウイルス感染症が５類に移行したこともあり、各種イベント等が行われ、１番石狩市民カレッジの開催数や５番認知症カフェの参加人数、裏面になりまして７番のカローリングのような屋内のスポーツ大会の回数も回復しております。令和６年度におきまして、最終年でもあることから、より多くの方が参加できるよう、開催を検討することとしております。

戦略目標２『子育て力』をさらに発揮するについてです。資料は３～４ページ、番号は１１番～１８番になります。戦略目標２全体を通して、担当課評価はＳが１項目、Ａが２項目、Ｂが４項目となりました。こちらは新型コロナウイルス感染症が５類に移行しましたが、１６番図書館まつりは中止とし、代わりに秋の読書週間行事を実施いたしました。また、図書館で行われておりました「科学の祭典」は、参加人数を制限して実施しておりました。１２～１４番は当課で実施している結婚新生活支援事業です。こちら、若者の結婚の希望を叶え少子化対策や市内への移住を促進するため、新婚生活の住居費及び引越費用の一部を補助するものですが、令和５年度も多くの新婚世帯を支援いたしました。ＫＰＩにつきましても、概ね順調と評価しておりましたＡ評価となっております。１７番のＫＰＩ「待機児童数通年０人」ですが、令和５年度実績は０人となっております。こちらは、令和６年１月１日現在の人数を計上しております。令和５年度は１年を通して０人でしたので、単年度としては目標達成のＳ評価としております。単年度はＳ評価となっておりますが、目標は引き続き通年０人の継続とし、取組を続けて参りたいと聞いております。

戦略目標１と２につきましては以上となります。

【角川会長】

今さらですけど、資料をもう少し大きくしないと見えないので、次回改善をお願いできればと思います。

それでは、戦略目標１『新現役世代が活躍する』、それと２『子育て力』をさらに発揮するにつきまして、ご意見等がございましたらご発言お願いします。これを読み込むのは大変ですが、ＫＰＩ数値目標等ありますので、そういった部分を見比べながら、ご意見いただけたらと思います。

船木さんお願いします。

【船木委員】

戦略目標２の１１番ですが、令和５年度の実績内容が実施なしと、令和６年度の取り組み内容も実施予定なしと記載されています。実績を見ると、令和２年が１、それ以降は０が続いているということで、戦略目標としてここに記載されているにも関わらず実施なしということで、困難な状況が立ちはだかっているのか、それとも何か有効な手段が他にあるのかということなのか、何か事情等々あればご説明いただければと思います。

【角川会長】

今の質問に対してお願いいたします。

【事務局（山崎主任）】

回答いたします。こちらですけれども、内容としましては、農業関係の結婚支援事業の開催であります。実際に開催を令和元年度、令和2年度にやってみて、継続してやろうと思ったけれども、同じ方が毎度来てしまうという状況で、同じ方が来てもうまくいかないだろうという事で、結局、農家さんの方から断られているという状況が続いておりました。それ以降も開催を検討しましたが、結局人が来ず、農家さんの方からニーズがなくなってしまい、担当課の方からは、対象者からの希望もなくマッチングサポートの実施は予定しないという事を聞いております。実際にやってみてうまくいかなかった形ではありますので、目標としては立ててみたけれども、実情に合っていなかった形になっております。以上です。

【船木委員】

説明ありがとうございます。理解出来ました。しかし、戦略として掲げてあるので、それが開催数0で、実施予定なしだといった戦略が戦略なのかというところがご意見させていただきたいというふうに思いました。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。

高宮委員お願いします。

【高宮委員】

スタートに当たってちょっとお聞きしたいですけれども、担当課の評価となっているのは市としての評価なのか、担当課としての評価なのか、また市としてこの評価が外側に出していいというチェックをされているものなののでしょうか。担当課から出てきましたからどうですかというのは、なんかちょっと疑問かなというところをご回答いただければと思います。

【事務局（宇野課長）】

ご質問ありがとうございます。まず、担当課評価という記載はありますけれども、まずは当然事業を実施しております担当課としてどういう取組をしてその結果どういう評価だったのかというところは、まずは評価のプロセスとしてファーストステップとしてあります。今ご指摘いただいた市としてのという部分ではございますけれども、担当課からいただいたものをそのまま載せているわけではなくて次のプロセスとしては、この総合戦略を所管してございます企画課においてきちんとヒアリングをし、内容などを確認したうえで、評価します。当然そのプロセスの中で、担当課の評価と最終的にヒアリングの結果違う評価が出ることもございますが、表記としては担当課評価となっております。これを踏まえまして、この懇話会の委員様にご協力をいただいたうえでの評価、次のプロセスになりますけれども、それをもって最終的に総合戦略の推進本部会議、こちらにおいて最終的に評価をします。それが市としての評価になります。ですので、これがそのまま担当課という形でさらけ出されるというよりは、様々なプロセスを経て最終的には市の評価として公表する形になります。以上です。

【高宮委員】

わかりました。ここに担当課と書かれているので、われわれ外側の委員会としてはちょっとおかしいのかなという考えが前から持っていましたので、一応みなさま共通の認識を持つという事でお聞きしました。ありがとうございました。

【事務局（宇野課長）】

ありがとうございます。

【角川会長】

他いかがでしょうか。さっきの11番とかですね、毎回私も思うのですが、実績が0だったり少なかったりしたらやっぱりもっと知らしめてあげたい呼びかけをしてあげたい。0にならない努力を当然しているとは思いますが、そこを更にいつも思うところで、特に評価Bのところはそう思うことが多いので、その辺をさらに促進していただければと思います。

他、1番と2番についていかがですか。

住吉さんどうぞ。

【住吉副会長】

評価の仕方の中で、1番が評価理由の中で3,000人に達していなかった、で改善が必要でB評価、対して7番だと前年より増加したからA評価で1年あたりの目標はたぶんこれ達していなのですが、内容に改善があったのではないかとということで、ちょっと評価の仕方によらつきがあったと思いますがどうでしょう。

【事務局（宇野課長）】

はい、ご質問ありがとうございます。昨年度の懇話会のご意見を踏まえたうえで、先ほど申し上げましたプロセスの中の企画課の評価の中で、そういった事を意識しつつ評価をさせていただいているところでございます。その1つの現れとして、特に評価において説明が必要な部分については赤字でというところで、なぜその評価になったかという部分をなるべく詳しく合理性を持って説明しようというところで、まずそういった考え方に基づいて評価しております。それを踏まえたうえでございますけども、まずは数値を掲げているものについては、数値に対してどうだったかというところは当然評価としてでございます。一方で、その数値に至らなかったのが、色んな要因があった中でもう少しこうすれば結果としてもう少し良好な成果を得られたのではないかとという部分であったものについては、やはり今後の伸びしろという部分も含めて、B評価としています。しかし、昨年度の議論の中で数値としてのKPIではありますが、数値でなかなか評価も難しい部分、様々な努力・PR含めて、あるいは関係団体のアクションも含めてやれる部分についてはしっかり取り組んだうえで、それでも必ずしも数値に届かなかったものに関しては、改善を得たうえでの成果という事や、それプラス外的な要因、コロナが5類に移行はしたものの尾を引いていると言いますか、影響を受けているというものにつきましては、主催者の責めに帰さない部分もあることも踏まえ、改善を重ねたうえで届かなかったという部分をA評価にしている部分もでございます。

よって、改善があったものの数値が届かなかった部分はBとなりますが、やはりいろんな改善を含めたうえでの、なおかつ様々な要因があったものについてきちんと対応しているという部分において、A評価にしているというところがございます。以上です。

【住吉副会長】

7番にいたっては、5年間で1,200人、1年あたり250人弱ですよ。それ達成していなくて内容は良かった、なんで内容が良くてAだったのかはわからない。1番は内容を改善すべきと書かれているので内容が悪かったから改善しようというのがわかりますが、7番は人数も達していないのになんで内容を改善しなくていいのかというところが気になっておりました。内容改善しなくてもいい旨も書いてもいいのではないのでしょうか。人数達成していなくても今後の見込みとしてこのまま続ければいいのとして書いたとしても、人数は達成しないですよ。内容は良くなかったのではないかと思います。どうなのだろうなと思いました。

【事務局（宇野課長）】

担当課とお話しした中では、開催が予定されていた大会については、コロナが5類になったことで再開がきちんとできてその大会準備もきちんと余裕を持ってでき、対前年度から大会参加者増に繋がっているといった部分を踏まえて評価してございます。

【住吉副会長】

1番もそうですが、参加者伸びていますよ。だけど達成していないからB評価ですよ。表現の仕方バラツキというか、こっちはこうやって書いているけどこっちは改善しなくてもいいって、1番は改善すべきって達成していないので改善すべき、7番は達成しないけど改善しなくてもいい、ちょっとあべこべになっているというか、まあいいです。

【高宮委員】

たぶんですね、KPIの基準の問題ですよ。ここに数値しか書いていないので、市民の行動等もKPIの基準になるものですから、ここのところを先に説明された方がよくわかるのではないかと思います。数字だけ追っかけてしまうと必ずこういうことが起きます。数字でない効果もあるという事も考えなければいけないと思います。参考にお話ししました。

【事務局（宇野課長）】

ありがとうございます。

【角川会長】

まさに今日、支店長お二人見えていますけど定量定性ですよ。KPIも定量情報といいますか定性の方も数字に表れない部分だとかそういったところも補足していただくか、この赤字でもう少し書いていただければわかりやすいかなというふうに思います。

続きまして、時間もありますので戦略目標3と4に進ませていただきます。1と2は最後の方に振返ってまたというのもありますのでまず進めさせていただきます。それでは資料の4、戦略目標3と4の説明の方を事務局よりお願いいたします。

【事務局（山崎主任）】

はい、続きまして、「戦略目標3『地域資源』からモノやしごとを創る」について、資料は5ページから8ページ、番号は19～35の17項目となります。

戦略目標3全体をとおして、担当課評価は、Sが5項目、Aが8項目、Bが4項目となりました。

5ページの23番の地場農産品販売額につきましては、「いしかり災害時対応ファーマーズ・マーケッ

ト」として石狩振興局様の認定を受けた「とれのさと」が、令和2年度の施設のリニューアル以降、売り上げを伸ばしていると聞いておりまして、順調に推移しているところであります。

33～35 番、7 ページにつきましては、石狩湾新港、石狩湾新港地域に係る取り組みでございますが、物流関連ゾーンの新規立地企業を昨年「5 年間で 80 社」に上方修正したところですが、令和5年度に追加で15 件が立地となり75 社になりまして、今後も順調に推移していくものと聞いております。

35 番、8 ページとなります。こちらのエネルギー関連企業新規立地数につきましては、令和5年度に洋上風力関係事業者が立地したことから、K P I の目標である5 年間で3 件を達成したところであります。

次に「戦略目標4『いろんな顔』をつくる」につきまして、資料は9～10 ページ、番号は36～42（7 項目）になります。戦略目標4全体を通して、担当課評価はSが1 項目、Aが6 項目となりました。

9 ページの36 番、海水浴場につきまして、令和5年度につきましても感染対策を講じ、監視員を確保したうえで開設をしました。多くの入込があり、また、サイクリング事業につきまして、藤女子大学の生徒たちが作成した市内散走のプランが石狩サイクルナビに掲載されており、当市を訪れるサイクリストに活用されているところでございます。

37 番、同じく9 ページです。道の駅につきまして、昨年開業5 周年ということで、記念イベントを開催し誘客を図り、道の駅の年間目標40 万人を超え、好調ということを知っております。

戦略目標3、4 につきましては以上となります。

【角川会長】

「戦略目標3『地域資源』からモノやしごとを創る」、そして「戦略目標4『いろんな顔』をつくる」、この2 項目について、ご発言、ご質問等ございましたらお願いします。

例えばなんですけど、戦略目標の3 ですね。地域資源からモノやしごとを創るなんですけども、河野委員、私と一緒に長年やっていたら河野委員の方で、コロナも5 類以降に地域活性化イベント等に対して例えば広報いしかりの取材をとおして何か感じるものがあればちょっとお聞かせいただきたいなと思います。

【河野委員】

はい、実は違う事をずっと考えておりまして、最初の方でPR の仕方でもう少しなんとかできたのではないかとと思うところもあったりしますので、そこは私の課題だなと反省したところがございます。あと観光のほうについては、ここで交流人口数、観光客入込数というのは達成していませんけども、ここは冬対策をもう少しやっていくべきだなということで、今日は観光協会の方いらしていないのですが、この会で一度犬ぞりレースの事を申し上げたと思いますが、それをご紹介したら去年やる事が出来たそうで、非常に評価が高くてこれからも続けていくというお話がありました。地道ですけど、そういうことを重ねていって、夏だけの石狩ではないという事を、私共PR をしていきたいなと思っています。

【角川会長】

おっしゃってましたよね、犬ぞりレース。すごく好評でしたよね。

【河野委員】

やれましたよね。

【角川会長】

よかったですよね。ほか、いかがでしょうか。

例えばですね、30 番を見ていただきたいのですが、「高校生の雇用」に関連するK P Iとなっていますけど、今回初めてご参加された石上委員にお尋ねしたいのですが、新社会人の就職後の不安だとか現場からの声はどういったものが寄せられているのでしょうか。

【石上委員】

全員というわけではないと思いますが、これも時代の変化なのかなという声として、1つ電話に出るのが怖いという若い方の話を聞いたことがありまして、今、ご自宅に固定電話がなかなかない時代になってきたので、携帯だったら誰からかかってきたというのがすぐにわかりますが、職場はもちろん、誰からかかってきているかわかりませんから、そうなりますと、不安感を感じるという方が、今一緒に働いている方々の中にいるというふうに聞きました。なので、そういう方々がいるということを私たちも意識していかないといけないのかなというふうに感じています。やっぱり新しい方たちと働くことになってくると、上司や先輩としては今何でもハラスメントというふうに言われてしまう、そういうふうな所に敏感になっているという声も聴くので、うまくコミュニケーション取りながら、働いていくにはどうしたらいいのかなというのを若い方も先輩も一緒に考えていくのが必要なのかなというふうに感じているところです。

【角川会長】

確かに人不足、人材不足というのはここ数年深刻な問題、それもまた改善されずにずっと続いていますが、今おっしゃったようにちょっと適用できないような人材、どこの会社もどの業種に行っても十分通用する求められる人材、そういう格差というのもあったりして、で、色んな事が苦手な子でも引き受けてもらえるような、働けるような環境なり職場なり会社をサポートしてあげたいなと、私もそのような人材に関する仕事もちょっとやっていますので、それは常々思っております。

3と4につきまして、他いかがでしょうか。よろしいですか。また最後に時間があればみなさんにご発言いただきたいので、その時までにお考えあればまたご発言いただきたいなと思っています。

それでは、次戦略目標の5と6ですか。こちらを事務局よりご説明お願いいたします。

【事務局（山崎主任）】

はい、では次に「戦略目標5 誇りとなる『人や文化』を育てる」について、資料は11～13 ページ、番号は43～55になります。

戦略目標5全体を通して、担当課評価はSが4項目、Aが6項目、Bが3項目となりました。

44番、11 ページです。ファーストコンサートは市内9校が参加したほか、「放課後すこやかスポーツ教室」をそれぞれ実施、順調に進んでおると聞いております。

48番、12 ページです。こちらのスポーツイベントにつきまして、K P Iを昨年「5年間で10件」に上方修正したところではありますが、令和5年度もソフトボール関連のイベントの開催が多く、計6イベント年間で実施することができ、目標達成となりました。

55番、13 ページです。こちらの「ふるさと納税の寄附件数：5年間で7万件」につきましては、第2期に新たに追加した項目になりますが、地域の関係人口を増やす有効なきっかけとしてとらえ、新たに設定したもので、令和5年度におきましても順調に件数が伸びており、金額の方も順調に推移していると聞いているところです。

次に「戦略目標6 時代にあった地域として持続する」について、資料は14～15 ページ、番号は56～65、10項目になります。戦略目標6全体を通して、担当課評価はSが5項目、Aが3項目、Bが2項目

となりました。

うち 58 番、59 番、14 ページです。当市交通に係る目標であり、浜益区を中心に行っているデマンド交通の利用者数が引き続き好調で目標を達成したほか、市内オンデマンド、新港地域の通勤オンデマンドの実証運行を行い、公共交通の維持・確保、利便性の向上に向けた取り組みを続けております。なお 58 番デマンド交通利用者数について昨年度 K P I を「5 年間で 10,000 人」に上方修正したところではありますが、すでに目標を達成しております。

62 番、15 ページです。「遊休公共財産の効果的な活用・処分件数」5 年間で 3 件につきまして、令和 3 年度は「旧厚田小学校」、「旧新港南浄水場」の売却を行い、令和 4 年度は「旧花畔市街浄水場」を売却し、令和 5 年度は「旧聚富保育園」、「旧おおぞら児童館」、「旧市営住宅南花川団地」を売却したほか、旧適沢コミュニティセンターの利活用のため、ワーケーション実証事業を実施しております。令和 6 年度におきましても、数件のプロポーザルを予定しておりますが、売却に至るかどうかは未確定となっております。

以上となります

【角川会長】

「戦略目標 5 誇りとなる『人や文化』を育てる」「戦略目標 6 時代にあった地域として持続する」、この二つに関してご意見等ございましたらお願いいたします。

やっぱり S・A 評価もかなり多いですし、かなり目標値も上回っているように思います。

例えばソフトボール、結構盛り上がっていますよね。ふるさと納税はすごいですよね。

番号 50 番の地域おこし協力隊ですが、これまでの地域おこし協力隊による活動を通じて、地域への効果、良かった点を白井委員いかがでしょうか。

【白井委員】

もう、千人を切るぐらいになってしまった浜益地区ですが、その中で来ていただいた協力隊の方たちの活動というのはなくてはならないものになっていまして、今回 7 月に各地区のお祭りがありますけども、そういうものもしっかりと彼らはバックアップしてやってくれますし、彼らが主体となった地域で生まれ育った若者の「わかもん会」というのが非常に中心になって地域を盛り上げていこうというものの核になってくださっている。外から入ってきて冷静に見ることができ、冷静に色んな環境や魅力を評価できるというのはとてもありがたくなくてはならないものになっています。

【角川会長】

いい方向に進んでいるという事ですね。では、関連してですけども、昨年、厚田区に協力隊が着任していますが、小山委員にも地域おこし協力隊に期待することなどございましたらお聞きしたいと思います。

【小山委員】

はい、今男性二人おりまして、一人はコロナの関係でちょっと伸びましてもう少しで退任ですが厚田に住んでおります。その方は一応、地域おこしの石狩地区の会長を行っており、いろんな方の意見などをまとめて地下歩行空間やいろんなところで集まって、各都市の美味しいものなどを P R に歩いています。もう一人の方は昨年入ったばかりで、まだ若いので道の駅に置いております「たこ飯」の継承という事で、ほぼたこ飯は継承したので今は自分でやりたいシェアハウスその準備に取り掛かっています。あと、支援員の方は望来出身の方で、その方はお子さんもいらっしゃる方なので、子どもの預かりの関

係とか、住民の方にアンケートを取って活動しております。楽しみにしております。以上です。

【角川会長】

他いなかでしょうか。今日初めて参加された尾方様、戦略目標6の中で、「ICTを有効活用する新たな行政サービスの構築」の項目がございますので、「デジタル人材」の分野からご参加いただいています尾方委員にお尋ねしたいのですが、情報通信技術の活用については、例えば教育や仕事の場においても「リモート化」が急速に進むなど、コロナ禍で皆さんご存知のように大きな変化があったと思います。今後求められる仕組みや技術など、そのあり方について、ご意見等ございましたらお聞きしたいなと思っております

【尾方委員】

はい、一概にこのやり方、この技術がということではないと思います。それぞれの場で、オンラインでやった方が望ましいことと、対面なり集まってやった方がよいことなど色々違いがあると思います。そこをしっかりとコミュニティなりの中で見極めながらやるのが第一かなと。技術的な部分については、進化や新しい物がどんどん出てきていますので、そういったものについてはしっかり情報を集めて自分たちが活用できるものを取り入れていくという流れではないかなと思っています。一般的な意見になってしまって申し訳ないですけど以上です。

【角川会長】

ほか、5と6に関していかがでしょうか。よろしいですか。

では、冒頭で私がお話ししたように、初めてご参加いただいた方もいらっしゃるの、何点か直接お聞きしたいなと思います。佐々委員、農業を営まれているということで、例えば、戻りますが、戦略目標の3の「地域資源からモノやしごとを創る」の地元農産物を学校給食の食材にする「いしかりデー」の取り組みや、戦略目標の5「誇りとなる「人や文化」を育てる」の移住・定住についてということで、近年、新規就農者が増えていると思いますが、その取り組みについて、何かご意見等ありましたらお聞かせいただければと思います。

【佐々委員】

給食に関してですが、去年給食の方でとうもろこし5,700本出させてもらっていて、自給率、石狩の野菜を出したいという事で行っていますが、近年すごく温度が上がってしまっていて、私も正直一反5ヘクタールで営んでいますが、その中の10分の1のとうもろこしを全部潰した状態でした。他の農家さんもとうもろこしを作っていましたが、なんで私に5,700本来たかと言いますと、全員ダメになってしまっていて、それでも石狩産の野菜を出したいからどうにかやってくれと言われて泣く泣く小さい物でも出させてもらっていた。

地物野菜、全部50%でも100%でも出ればよいと思いますが、今の状況、環境、気温の部分や資材費などもすごく高騰していて、私も経費が2倍くらいになってきていますので、そういう部分もやっぱり補助等がないといくら何%にしたい、じゃあ何%になったから次は倍にしようと言ったとしても、現実的ではないという数字になってしまっているの、そういった面、農家としての面で言うのであれば補助していただきたい。

同じように新規就農の方の部分でもありますが、補助をたくさんしていただいているのもあり、私自身も9年前ぐらいに新規就農した時にこの資金を使わせていただいていますけども、正直、この資金が終わった後、100%何も借りないで経営できるかと言ったら絶対にできないんですね。資金から貸してい

ただいている金額に関しても正直かなり低くて、トラクターだとかそういう機械ラインに関しても倍近く、肥料・種全部倍近くなっている状況の一方、支援に対するお金はそんなに変わらない。少しずつ上がっているのかもしれないですし、今の支援の状態分らないですけど、上がっていったとしても全然足りないような状況です。今新規就農の方ってすごく増えていて、私の周りもけっこういらっしゃいますけども、それが果たして期間が終わった後に継続できるのかと思っています。女性ならなおの事ですよね、やっぱり男性より力はないのでどうしても機械頼りという部分も多いです。そうすると、継続してここから5年10年15年とやっていけるかという、私も女性経営者なので私の面からみても9年やっても正直ぎりぎりというか無理というレベルぐらいなので、この数字だけ見れば新規就農者増えて石狩の農業盛り上がるね、地域活性化して「とれのさと」も売り上げが伸びていて、循環がすごくよくなるかと思うんですけども、細かい部分で見ればたぶんもう何年かしてくるとガタガタとくる部分があると思うので、そこもちょっと加味してみないと、ここの数字だけを見るのではおそらくふたを開けてみると実は衰退していたという部分にもなりかねないので、どうしてほしいというのはまだわからないですけど、そういう部分も見てもらえればと思います。

【角川会長】

非常に厳しい実態もあるということで、貴重なご意見ありがとうございます。

今日初めてご参加のNPO法人シャロームの釣本さん。お話ししたいのですが、コロナによる影響もひと段落して市民や団体の各種講座や集会の高齢者や子供を対象に徐々に活発になってきているのではと思いますが、その辺のお話とかもしあればお聞きしたいなと思っています。

【釣本委員】

今まで市民の講座に参加しているだけでしたけど、今年からそちらのお手伝いをするようになりました。いつも委員会で問題になるのは受講者がいないという事で、私はもっとネットを使ったIT化の講座を勧めてはどうかという事で提案していますが却下されて、なんとか高齢者だけでなく若い人も受けられるような講座を作っていく必要がある。そういう意味では、例えば子育て講座だとか若い人が興味を持ちそうなそういうものを開いた方がいいと提案しています。今、模索中ですけどもこの市民大学がBというのはそうだろうなというところです。

【角川会長】

ありがとうございます。それでは、全体を通してというところになってきますが、意見、感想で構いませんので、秋田谷さんお願いします。

【秋田谷委員】

はい、一般公募で参加させていただいております。石狩で生まれて、石狩で育って44年になりましたけども、厚田浜益の地域おこし協力隊の活動を知って、なぜ旧石狩地区にはないんだろうといううらやましさもあり、農業関係のお仕事することもあって佐々さんの事も存じ上げていて、今日会えてテンション上がっていますけども、そういった事で私ちょっと気になったテーマが戦略目標6の時代に合った地域として持続するという事で、例えば町内会であっても私たちNPOであっても時代に合った活動をしていかないと継続していかないという事がありまして、先ほど釣本さんもおっしゃったように年齢高い方でも若い人でも受けられるような講座、どの世代偏ることなくまんべんなく石狩市民として参加できることがあればいいなと思って日々活動しています。

私の方でも毎年11月にまちづくり石狩というイベントを実行員形式で行っておりまして、その目的

は「石狩市民が石狩の事を知る」というテーマでやっています。石狩に長い事住んでいましたけど、私も30手前ぐらいまでは寝に帰ってくるためだけの町ということで、石狩って何もないなって思っていました。ただ、知ることによって愛着がわきますし、石狩って何にもないようでいて、色んな事があってなんでもあるから鮭以外突出していないというか、鮭の町という大まかなくくりになりますけども、そういった鮭が帰る町という事で、子ども達も将来帰りたくなる町にしたいなと思って日々活動しています。どのテーマがというのはないですけども、時代に合った活動と言いますか、色んな子ども達もお年寄りの方も、働いている方たちが日々の活動に参加するということはなかなか難しい事でもありますけど、色々見てこういう活動をしている方たちがいるから何も問題なく暮らしていけるんだなという事を痛感しています。私もまちづくりのNPOなので、こういうテーマの問題点とかも意識しつつこれからの活動に糧にしていきたいなと思っています。まとまらないことすみません。

【角川会長】

そういう市民活動も含めて細かいコツコツとした取り組み、小さな取り組みの積み重ねこれが大きく実を結ぶ、私共確信を持っていますので、いつも石狩は特色がちょっと不足しているみたいな人気がないんですよ。これはもう10何年大きく変わっていないですけどもそんなことはないですね。必ず細かく各団体なり個人なり企業なりが石狩を良くしたいという事で積み重ねていけば、大きく実を結ぶというふうに思っていますので、引き続きどうぞよろしくお願いします。

それでは本日は金融機関から来たお二方がお見えになっております。北海道信用金庫の林支店長。地域経済の動向など感じられている事を中心にお話しいただければと思います。

【林委員】

その前に、当資料について感じた点ですけれども、担当課の方から評価が出ていまして、A項目、B項目、S項目という事で評価されていますけども、特に全部共通して言えたことは、B評価されているところでも、昨年度の取組内容と今年度の取り組み内容の予定が全く変わっていない文章であって、もう少し今年度ランクアップさせるために具体的にこういうものをやるんだというものを明示したほうが、我々もこれだけ見ただけでは何も努力していないふうに見えない、半分諦めているのかなと思われるところもあるものですから、できれば評価上あまり良くなかったところについては、肉付けしてもらって来年度はもっと良くなるようにということで明示していただいた方がいいかなと思いました。

コロナが5類に分類されて以降、石狩市内もいろんな行事や催し物が通常に戻ってきたなという印象を受けておりますので、おそらく今年度はほとんど100%催されるのではないかと思います。おそらく評価もバックアップに繋がっていくのではないかと予想しております。

景気の部分においては、個人的に感じる部分においては石狩市内というのは本当にコロナ期間中もそうでしたけど、どこの会社もリスクはあったと思いますが、石狩においてはそんなに景気が悪いというイメージはなかったです。今コロナが明けてからは段々良くなってきているなという印象、元気のある会社が多いなという印象が見て取れます。ただ、コロナ3年間続いて本当にまともに影響を受けた会社については、順調にいつているところとそうでないところとの差が開き始めてきているかなと感じも受けております。

【角川会長】

続きまして北洋銀行の中野支店長お願いします。

【中野委員】

中野です、よろしくお願いいたします。

景気評価については、林支店長がおっしゃったとおりかなと思うのですが、やはりコストアップがすごく厳しいのだらうなと思います。直近での消費者物価指数は2.7とか2.8だと思いますので、我々金融機関の中では70や72の法則というのがあり、70や72を消費者物価指数で割るとおおそ物価が倍になる年数が出てきます。仮に3%とすると、70を3で割ると23ぐらいですので、23年後には今の物が倍になっているという予想のため、非常に大変です。さっき農業の関係でコストが、という話がありましたが、そのとおりだなと思っており、そのコストを転嫁し、付加価値をつけて高く売ってという事をしていかないと、立ち行かなくなるのだらうなと思っています。

全体的な感じですと、石狩市で最近お客様のところを回って思ったことは、人が不足しているのは間違いないですが、外国人の技能実習生を非常にたくさん採ろうとしている動きがあります。ただ、問題として今背後で出てきているのが、住環境が整っていないことです。弊行の目の前のURの住宅がありますが、あそこは常にいっぱいです。周りでいくとあの辺は一種低層地区なのでアパートが造れません。ですので、外国人技能実習生を受け入れても受け入れる場所がないので、どこに住ませますかというのと、手稲や札幌市に流れ出ています。外国人技能実習生をサポートするためには、ある一定の場所に集中して人を住ませたいし、当然住む人の住環境のことを考えれば近くに買い物が出来る場所があった方がいいというのが出てくると思うので、その辺の整理やそういう支援が必要です。人不足というものに対して、石狩市がやろうとしている新港開発という中で、そこに対して人をどうくっつけていくのかというのに、対応しきれなくなっちゃうのを肌間を感じていますし、たぶん企業主のみなさんもそう思っているのではないかなと、これ一つ今後の課題かなと思っています。

せっかくなのでお話しすると、先ほど高宮先生がおっしゃっていたKPIの話、僕は出身母校だからといって先生に同調するわけではないですけど、KPIって本当に大事だなと、確かに基準の統一は必要なのかなと思っていました。KPIの基準なので、基本的には数字で表すというのは基本的な考え方だと思いますが、そのKPIをどういうふうにもっていくか、行動を評価するのか成果を評価するのかという話だと思っています。もし取組の内容を評価するという事でKPIを設置するのであれば、例えば何々を何回やりました、何回やりますという目標の立て方になると思いますし、一方で成果をKPIにするのであればその取り組みをした結果500人になりましたであれば、500人がKPIになります。たぶんKPIの持っていくかたやその評価の基準というのを、もう少し統一すると、高宮先生のお話や住吉先生からもあった評価の基準がクリアになるのかなと思って聞いていました。

最後に、先ほどのコストが上がって農業が大変だという話、秋田谷さんがおっしゃっていた石狩市の地域の事を知るという話、これもとても大事だと思ってまして、金融チックな話になるかもしれませんが、戦略はどこかに勝つためにやりますよね。勝つというか成長するために。北海道の方も来ているので北海道の全体の事を話せばいいと思いますが、石狩市なので石狩市の事を考えれば競争相手が札幌市なのか、それとも競争相手が北広島市なのか、江別市なのか。たぶん他所よりも優位性を持って戦うということなので、石狩市が発展するという視点を持てば石狩市のリソースをどう生かして他市町村と区別を図っていくかという、たぶんそういうのが戦略なのだらうなと思っています。そう考えると、ただ物を作る、物を組み立てるは、きっとコストダウンでしか勝負にならないので、物の価値が上がっていった付加価値を付けなければならぬ時代が来ると、企画やストーリー、アフターフォローに行き着くのだらうなと。農業漁業だと石狩市はこういう歴史があって、こういう形になっていて、なんでこうなったのかっていうストーリーを付けながら、付加価値を付けていった同じものでも勝負していく、それまた地域のリソースでもあるのでそんなことを意識して戦略って作っていくとより良くなるのかなと思って聞いておりました。そう考えると、石狩市を知ることはずごく大事なことで、そういうところに

お金を使うことが一つの施策としてありではないかなと思っております。以上です。

【角川会長】

もう、中野さん別枠で講話していただいてもいいのかなと思うほど良い話でした。続いては、みなさんご発言いただいたのですが、今日は石狩振興局から杉村課長においていただいておりますので、道内の他の自治体の取組状況など含めましてお話いただければと思います。

【オブザーバー（北海道石狩振興局地域政策課長 杉村氏）】

はい、石狩振興局の杉村です。管内、同じように総合戦略の見直しというのは、管内8市町村ございますが策定済み、改正済が1団体、来年度以降始めるのが1団体、6のうち2の市町は現行計画を延期するという動きで動いております。残りの4市町については今年度から議論して改正するというような流れになっております。まずその情報提供をさせていただきます。会長も最初のごあいさつで言っていた通り、前回の計画から大幅に社会情勢が変わっております。デジタルや、北海道で言うゼロカーボン、国で言うカーボンニュートラル、この取組は前回全く無いです。そこが新しく増えてきたところかなというところで、現行、先ほど言った4市町、石狩市さんも含めて今議論始まっているところではありますが、GX、DXとかその話しについては間違いなく触れてくるだろうと。前回の計画ではっきりとデジタル化の話を表に書いて、石狩市さん小項目の中でICTの活用を書いていたのですが、大項目で書いているのは私の記憶ではなかったもので、そのあたりは人手不足もございますので必要な状況かなと。あとは先ほど中野支店長からいただいたとおり、戦略ですので仮想敵を作り自分の優位性を出すというのはきっと国の考えていることだと思うのですが、北海道全体で言うと完全に人口減少でピークは完全に超えてしまっています。正直に申し上げますと、全国でそのような状況になっておりますので、果たして今奪い合いの精神でいいのかという部分も少し議論され始めている状況でございます。例えば、石狩市さんは書いていただいておりますけど、広域な視点での石狩市だけでない周辺も巻き込んだ取組、実際札幌市の連携中枢都市圏という枠でやっていただいておりますが、そのあたりの意識も今後必要になってくるのかなと私としては思っております。あまり暗い話ばかりして申し訳ないのですが、とはいえこういった現状なので、厳しい状況を踏まえたうえで明るい話を、未来の子ども達に繋がるような戦略を作ればいいかなと思っておりますので、いろいろと今日皆さんの発言で勉強になりましたので、引き続きまた一緒にやらしていただければと思います。ありがとうございます。

【角川会長】

はい、杉村課長ありがとうございました。まだまだご意見もあるかもしれませんが、お時間になりましたので、まとめさせていただきたいと思います。

以上、戦略目標1から6まで、65の事業の点検・評価を終えたのですが、全体を通じてこれだけはこののがございますか。なければ、色んな前向きなご意見、改善、見直しも必要ではないかというご意見もいただきましたので、本懇話会としては今回、改善や見直しのご意見がなかった事業、政策に関しましては担当課の評価通り、そして、改善とか見直しが必要だった判断した事業については今後事務局が担当課と協議して今後の方向性について検討していくと、いう事にしたいと思いますがいかがでしょうか。

<異議なし>

ではそのようにさせていただきます。ではその他については、先ほどございませんということで飛ばしまして、最後に事務局の方から何かございましたらお願いいたします。

【事務局（吉田主査）】

はい。事務局から3点ご連絡いたします。

1点目、本日までご議論いただきました内容につきまして、改善・見直しが必要とされた事業につきましては、懇話会のご意見を踏まえ、担当課と協議のうえ、評価や今後の方向性について、本部会議にて決定し、後日、皆様にご報告させていただきます。

2点目、本日の会議録につきましては、事務局で作成し、会長にご確認いただいた後、皆様に配布いたします。

3点目については課長の宇野から説明させていただきます。
私からは以上です。

【事務局（宇野課長）】

今年度は次期総合戦略のご検討をみなさまにもしていただくという事がございまして、2回目以降から本格的にご議論いただきたいと思いますので、次期の総合戦略のイメージと言いますか、必要な所を簡単に説明したいと思ってございます。

まず、市が作る総合戦略、国が作る戦略、道が作る戦略、これらは連動しながらやっていくという事がございまして、国におきます地方創生の動きとしましては、ご承知のとおり令和4年12月に、これまで第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略という名称でしたが、名称も含めて改定されまして、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」こういったものになってございます。改定の狙いと言しましては、これまでの地方創生における魅力ある地域づくりの取り組みに加えて、昨今急速に市民生活や経済活動への活用が進むデジタルを市の活性化に活かすと、そんな地域こそ効果が高いのではということで、そういう観点や視点として入れられたところでございます。ですから本市の総合戦略として今までの地方創生の取組にどうこのデジタルの部分をも落とし込んでいくのか使っていくのかというところが大きなポイントの一つと考えてございます。

一方で、これまでの地方創生の取り組み、これが今年で10年目になるということで、国においても報道でもされましたけども、振り返りということを行ってございます。総論と言しましては、東京圏への一極集中の是正の目的が達成されず、コロナ禍終息後はむしろ増加傾向にあると。原因の分析は容易ではないが、改めて首都圏への一極集中の是正は大変困難なテーマである、ということを前提として、またそういったことを認識しての地方創生のスタートということになってございます。

本市と言しましては、これまでの地方創生の4つの柱「しごとをつくる」「人の流れをつくる」「結婚、出産、子育ての希望を叶える」そして、「魅力的な地域をつくる」ということを基本としつつ、各種取り組みにデジタルというものを横断的に活用するのか落とし込むのか、そういったことで、主に首都圏の方が住みたくなるまち、次のライフスタイルの充実の選択肢になるようなまちとなるための戦略づくりに努めたいと考えてございます。

第2回目以降、夏場にかけて庁内で原案を策定いたしまして、これを基にみなさんとより議論を深めながら、強靱で美しい計画となるよう肉付けをしていきたいと考えてございますので、よろしくお願いいたします。私からは以上です。

【角川会長】

スケジュールに関してですが、例年、第2回はフィールドワークが多かったですよね。企業とか施設を見学。その辺を含めてこれから決めていくという事でしょうか。

【事務局（宇野課長）】

そうですね。また第2回目についてはお知らせを申し上げます。実はいまフィールドワークというお話が出たのですが、今回は次期計画の策定の議論を優先するという事情もありますから、フィールドワークの方はちょっとタイトかなという部分もありまして、ご了承いただければと思います。

【角川会長】

わかりました、それでは改めてご案内をよろしくお願いいたします。

それではすみません、時間を超過してしまったのですが、以上をもちまして、第1回石狩市総合戦略推進懇話会を終了いたします。今日は結構いいスタートを切れたのではないかと勝手に思っていますが、また第2回よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

令和6年 8月23日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長

角川 幸治